

絵画の音を聴く

美術とサウンドスケープの交点

サウンドスケープは客観的なものではなく、自分自身が主観として認識する心象です。記憶の中の音もサウンドスケープを形成することができます。さらに、直接的な記憶ではない刺激からも、心象風景を描くことができます。たとえば、全く音を生じないメディアからも、人は何らかの音響的な印象を抱くことがあります。

今回は、絵画の中の音に耳を傾けるアクティビティを通して、美術とサウンドスケープの接点やサウンドスケープ思想の包括性について考えます。

・ワークショップ

■ファシリテーター

鈴木 秀樹 (学芸大学附属小金井小学校 教諭)

神林 哲平 (『きくことからの学び』著者/早稲田実業学校 初等部 教諭)

・トークセッション

招待講演 高橋 憲人 (弘前大学大学院 地域社会研究科 博士課程)

■聞き手 川崎 義博 (アーティスト/東京藝術大学 先端芸術表現科)

■司会 今田 匡彦 (『音さがしの本』著者/弘前大学 教授)

日時:

2016年7月31日(日) 13:30-17:00

会場:

東京都美術館 <http://www.tobikan.jp/>

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36

ポンピドゥー・センター傑作展のチケットを購入した上で、
入口の球体オブジェ付近にお集まりください。

参加費: 無料 (別途美術館入館料が必要。)

申し込みは 7/23(土)までにメールでお願いいたします。

kikaku@soundscape-j.org (お問い合わせはこちらへ)

定員: 20名 (先着順とさせていただきます。)

主催: 日本サウンドスケープ協会 <http://www.soundscape-j.org/>

企画: サウンド・エデュケーション WG